国際交流基金助成事業報告書

薬学部　２年次生　中村　志聞

１．はじめに

私は、３月４日から３月２０日までの２週間、オーストラリアで語学研修と薬学研修を兼ねた短期留学をしました。ホームステイを行い、滞在中の平日は、語学学校である kingscrif TAFE で授業を受け、午後は薬局見学などのアクティビティーに参加したりし、オーストラリアについて様々なことを学びました。

２．語学学校にて

Kingscrif TAFE で学びました。授業は基本的に平日の９時から 16 時まででした。最初はボキャブラリーや文法など基本的なことを学んだ他、オーストラリアの文化や自然について教わりました。特に、オーストラリアはビーチの美しさについて有名のようで、海水浴が盛んな為、それに関するルールや安全に行うためのノウハウについてプロのライフセーバーから講義を受けました。

今回の研修は、薬学研修でもある為、オーストラリアの大学で調剤について学んだり、薬局を見学したり、オーストラリアの処方箋について学んだりしました。

また、勉強だけでなく、アクティビティを楽しむ機会が豊富にありました。アボリジニーからアボリジニナル文化を学んだり、動物園に行き、コアラを抱っこしたりカンガルーに触れたりとオーストラリア固有の動物に触れ合ったり、最終日には地元の小学校に行き、子供達に日本の文化について紹介しました。薬に関することだけでなく、オーストラリアに関する様々な知識や文化について学べただけでなく、地域交流として子供達に実際に接し、しかも英語で発表することで、英語を使ってコミュニケーションを取ったり何かを発信したりすることに抵抗感が無くなり、むしろより工夫することができるだけの余裕を持つことができるようになりました。私は紙飛行機について発表しました。

３．薬学研修

今回の研修で行った薬学研修の内容は、現地の大学の見学と調剤体験、薬局見学でした。いずれの日も午前中に授業を受けて、午後に校外学習、という形でした。

大学見学は総合大学であるグリフィス大学に訪れ、薬について、成分と歴史などの講義を受け、調剤室で調剤体験をしました。今回は軟膏の着色と瓶詰めをしました。

また、別の日には薬局見学をし、教室で処方箋について講義をした後、薬局を見学しました。オーストラリアの薬局は、薬意外にも様々な日用品を置いていて、日焼けクリームやビタミン剤などのサプリメント、コンドームなどの避妊具などや、サングラスまでほぼ何でも置いていて、どちらかというとコンビニに近かったです。ただし、店頭にあいてある薬品は、処方箋無しでも買えるようなレベルのもので、そうでないものは厳重に管理された上で売られていました。この処方箋のシステムもなかなか面白いもので、1 度処方箋を受け取れば、対応する薬品は 5 回買うことができるようでした。日本だと、処方箋を受けて薬を買うと、次また買うのに、もう一度医師から処方箋を受け取らなければならないのを、オーストラリアでは 5 回まで買うことができる、というものでした。

４.オーストラリアはどんなところか

オーストラリアの気候は結構面白く、南半球に位置している国の為、北半球に位置する日本と季節が真逆でした。ですので、今回滞在した３月ではちょうど夏で、気温は平均して日中 30℃を超えていました。またオセアニア大陸自体、地域によって気候が異なり、内陸部は大陸性気候で日中はさらに高温でかつ雲がほとんど届かず砂漠など乾燥地帯となり、人口が集中するのは、雨が降り内陸ほど暑くない沿岸部の方です。ですから、オーストラリアは沿岸部に極端に人口が集中し都市が発展している国です。またオセアニア大陸は北半球のユーラシア大陸から地理的に隔離された環境ですので、独自に進化したオセアニア

大陸固有の生き物が多く生息しています。カンガルー、コアラ、オポッサムなどの有袋類やエミューなどがそうです。
オーストラリアの歴史自体も興味深かったです。オーストラリアにはもともとアボリジニーという先住民がいました。イギリスをはじめとするヨーロッパ各地が中世の頃、当時は絶対王政の時代で、王の権力は絶大で些細な罪から様々な罪で簡単に投獄される人々が相次ぎ、牢獄の不足から流刑先としてオセアニア大陸が利用されました。罪人として流された白人が定着し、オセアニア大陸における白人の人口が増加し、後にイギリスに植民地として支配されます。その間、アボリジニーと白人は衝突し、アボリジニーは一方的に迫害、虐殺され人口を減らし一時は絶滅寸前にまでなってしまいます。今は文化の保存活動や法整備で生き延びており、アボリジニー文化はオーストラリアの見どころとなっていますが、悲しくて暗い歴史的背景があります。後に 1901 年、オーストラリアはイギリス連邦の自治領としてイギリスから独立し、主権を得ています。
オーストラリアは白人の国のイメージがありますが、ゴールドラッシュ以降、中国などアジア系の移民が流入しアジア系人口が増加して、今は人口の 20%を占めています。オーストラリアもアメリカやカナダと同様、移民国家で多文化国家です。外をで歩けば、至る所の標識やデパートで中国語どころか日本語まで頻繁に見かけました。

５.ホームステイ

今回私が滞在した滞在先は、非常に興味深く、アボリジニー系の家庭でした。家族構成は母子家庭で、お母さんと６歳の男の子の２人家族でしたが、日本では珍しいくらい親戚や近所付き合いが密で頻繁に近所の子供やいとこが遊びに来て夕飯も食べてと、結構賑やかでした。アボリジニナルな家庭なだけあって、マザーからたくさんのアボリジニー文化について教えて貰いました。休日は海に行ってサーフィンしたり、橋から海にダイブしたりスリルのある体験をたくさんすることができました。

６.アボリジニー文化

今回、学校がアボリジニー文化を学ぶ機会を設けてくれていて、また私自身が滞在した家庭自体がアボリジニー系なため、たくさんのアボリジニー文化を見聞きし体験することができました。家の中にブーメランやアボリジナル絵画や伝統的な楽器であるディジュリドゥーなどアボリジニー文化に関する物がたくさんあり、休みの日にはブーメランを飛ばして遊んだり、ディジュリドゥを吹いてみたり、様々な体験をすることができました。また、休日には海に行き、その海岸を散策してアボリジニーに関する知識をたくさん教えてもらいました。主にアボリジニーの生活と利用していた薬草についてでした。アボリジニー文化の本質は自然崇拝で、先祖代々から自然を巧みに利用して生活してきました。ブッシュタッカーもしくはブッシュメディスンと言って周囲の動植物を道具に加工したり、食べ物や薬として利用したりしてきました。連れて行ってもらった海岸ですらその痕跡があり、貝塚のようなものがあって、興味深かったです。その辺に生えてる植物ですら虫刺され薬になったり食料になったりして、とても面白かったです。

７．最後に

この２週間、非常にたくさんの貴重な体験ができたと思います。過去の滞在では、単純に語学の研修のみでしたが、今回はさらに１歩進んで英語を通してオーストラリアの薬関係の事情を知ることができました。

また、アボリジニー文化の体験やコアラの抱っこなどオーストラリアでしかできない貴重な体験ができました。

初めてのことでも、遠慮せず自ら進んで取り組むことができたため、悔いのない有意義な留学にすることができ、本当に良かったです。この滞在で得た学びをこれからの成長に役立てていきたいと思います。